

2023年も5月が終わり、6月を迎え1年も半分か過ぎようとしています。また、これからの時期は最も水を使う時期です。そこで、今月号では水道水に潜む汚染についてご報告します。



1.有機フッ素化合物 PFOS / PFOA の汚染

今年に入り、急速に水道水への汚染がクローズアップされているのが、有機フッ素化合物 PFOS/PFOA による汚染です。

(1) PFOS / PFOA とはどんな物質なのか？

PFOS — 非常に安定した化学物質で、撥水(はっすい)剤 (水をはじく働き) や泡(あわ)消化剤に使われてきました。

PFOA — 同じく安定性が高く、PFOS と同じような動きがあるため、フライパンのテフロン加工や食品包装紙の撥発加工などに利用されてきました。



(2) PFOS / PFOA の何が問題か？

有機フッ素化合物の特徴は、その安定性にあります。

これは、つまり自然界では非常に分解されにくく、蓄積しやすいことを意味しています。そして今、問題になっているのは地下水や自然界に残留し、さらに人体に入り、体内に蓄積することです。



(3) 具体的な毒性は？

国際的に有毒性のある物質の製造や使用を規制するストックホルム条約において、平成21年5月に「PFOA」の規制が決定されました。つまり、国際的にも認知され規制されている毒性の高い物質です。そして、日本でも、この条約で国内の使用や製造が禁止されています。

(4) 水道水への汚染の拡がり

沖縄県ではすでに10年以上も前から、水道水や人体への PFOS/PFOA の汚染が問題になっていました。その汚染源とされているのが米軍基地です。特に人体の血中濃度は本土の10~20倍という高濃度のデータが発表されました。そして、ここにきて東京周辺や大阪など、各地の地下水や水道水への汚染が急速に広がっています。

(5) 浄水器にいで PFOS/PFOA を除去！

日本アクティブでは、2021年11月に沖縄県金武町(きんちょう)にて、PFOS/PFOA の除去試験を行っています。

このように、にいで浄水することにより70%以上 PFOS/PFOA が除去できることを、いち早く実証しました。

	PFOS/PFOA 濃度
原水 (水道水)	30 ナノ g
にいで通過水	9 ナノ g

2.浄水場で投入されているアルミニウムの安全性

(1) ご存知ですか？水道水にはアルミニウムが入っています

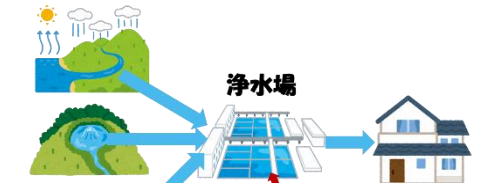
皆さまが毎日口にする水道水。実は、この水道水を作っている浄水場で、アルミニウムの一種のポリ塩化アルミニウムが入れられています。

(2) アルミニウムを入れる理由は？

多くの浄水場は地下水や川、湖から水を取水しています。

その原水が汚れているため、**原水中の汚れを凝水し、沈殿させ透明度を出すためにアルミニウムが投入**されています。

そして、投入されたアルミニウムの一部は沈殿せずに水道水となって家庭に届いています。特に、これからの梅雨のシーズンからは濃度が濃くなります。



(3) アルミニウムの人体への影響

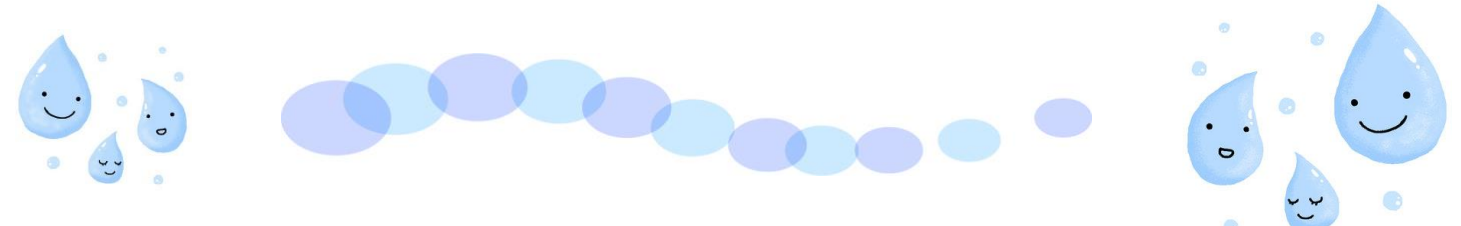
アルミニウムは**幼児が多量に摂取すると脳障害、成人が多量に摂取するとアルツハイマー**との因果関係が指摘されています。



(4) アルミニウムの濃度の分析結果

弊社で行った水道水のアルミニウム濃度の分析では、茨城県のある市では、水道水のアルミニウムが基準値の2倍以上も検出されています。

浄水器にいで、このアルミニウムを99%以上除去することができます。



水道水への汚染の心配は、上記の2種類だけではありません。しかし、水道水を安全・安心に飲むためにも自衛の方法があります。データで除去を実証している、**にいでシリーズ**を、どうぞこれからも安心してお使いください。

